公益財団法人愛知県文化振興事業団
令和５年１１月臨時理事会議事録

１　開催日時
令和５年１１月２９日（水）　午後２時から午後３時３３分まで

２　開催場所
愛知芸術文化センター１２階　アートスペースＡ
（名古屋市東区東桜一丁目１３番２号）
Web 会議システム（Zoom）使用

３　理事現在数
１２名

４　出席者
理事　１０名
水野直樹、伊藤弘憲、石田秀翠（暢夫）、上山信一（Web 会議システム使用）、太下義之（Web 会議システム使用）、加藤義人、久冨木原玲（Web 会議システム使用）、杉山勝、田中範康（剛）、桧森（檜森）隆一
監事　２名
安藤定雄、加藤勝利
説明した者
常務理事兼事務局長　伊藤弘憲
企画制作部長　藤井明子
広報・マーケティング部長　林健次郎
総務部長　岡田浩志
総務部総務グループチーフマネージャー　安藤俊雄
立会人
愛知県県民文化局文化芸術課　課長補佐　加藤直樹
愛知県県民文化局文化芸術課　主事　伊藤奈々

５　定足数の確認及び議事録署名人
定刻の午後２時、司会者の安藤チーフマネージャーが開会を宣言し、理事長あいさつの後、司会者が「本日の理事会は、上山理事・太下理事・久冨木原理事は Web 会議システムを使用して参加する」旨報告し、当該 Web 会議システムは出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにでき、出席者が一堂に会するのと同等な議論が行える環境であることを確認し、「理事現在数１２名

のうち、出席者１０名で、定款第４５条の規定による過半数の出席を得ており、有効に成立している。」旨報告した。

次に、定款第４４条の規定により理事長が議長となり、はじめに本理事会の議事録署名人について、定款第４８条の規定により理事長と出席監事である旨確認した。

6　報告事項

第１号報告事項　令和５年度職務執行状況の報告について

7　その他

（１）愛知県芸術劇場中長期計画について

（２）債券で運用する基本財産の帳簿価額、時価及び評価損益について

8　議事

議長は議事に入り、第１号報告事項について、伊藤常務理事から自主事業の企画制作、広報・マーケティング、愛知芸術文化センターの管理・運営等の説明を行った。

＜主な意見＞

（上山理事）Ｐ４の右端に定員数の欄があるところとないところがあるが、ないところは分からないのか。

（藤井部長）例えば他劇場での再演のダンスプロジェクト「Rain」の新国立劇場小劇場、北九州芸術劇場中劇場については、来場者数は分かったが、定員数は分からず記載されていない。あるいは、そもそも設けていなかったところもあり、Ｐ５ファミリープログラムのオープンハウスは、②の小ホールのイベントは定員数を設けていたが、①③の自由見学は定員数を設けていなかったので記載がない。

（上山理事）今おっしゃったことをちゃんと書いた方がいいと思う。定員が概念上存在しないならそう書くべきだし、問い合わせても定員数が分からない場合のみ分からないということにしてください。これは重要だと思う。来場者数は人気の度合い、成功か不成功か、非常に重要な指標なので、どれくらい来ていたら成功というのか分からないが、2000 人の定員で 246 人だとまずいし、300 人の定員で 246 人ならよかったということになる。極めて重要な数字なので、聞いても分からないときだけ分からないとするべきだと思う。

（伊藤常務）以降、注記等でそう記載させていただく。

（上山理事）Ｐ３(1)で「質の高い」とあるが、これはどういう意味か。質の低いものを呼ぶわけがないし、何か賞を取ったとか基準があるならそこを書くべき。質の高いとここだけ定性的なことが書いてある。この資料は全体は割とかちっと事実関係を書いてある。ここだけ質が高いという自己評価なのか何なのかよく分からない。資料全体のトーンの中、ここだけ違和感がある。どういう意味か。

（藤井部長）ここでは、評価をすでに得ているという意味で使っていた。もう少しはっきりとした基準があればそのような形で表記していきたい。

（上山理事）単に書類の書き方の問題かもしれないが、「質の高い」ではそういう意味がよく分からない。自分でやって質が高いと言っているのかと誤解すら受けかねない。正確な言葉にしていただくか、質の高いというのはこういうことなんだという説明を足された方がいいと思う。

（藤井部長）承知しました。

（加藤理事）実績としてどういう取組みをしていただいたかはこの書類を見ればよく分かると思う。その上で、例えば自主事業の企画制作は柱立てとして公演事業と人材養成事業と普及啓発及びアートキャラバン事業で構成されていると思うが、それぞれの取組みについて現在地をどう評価しているかが読み取りにくい。上手くいっているのか、課題を抱えていると当事者として感じているのか、第２期の最終年だというお話も伺ったので、それぞれの柱ごとに現在地をどう総括されているか、短くて結構だが、お聞かせいただけると次の議論に入っていきやすいと思う。

（藤井部長）次の報告事項にある第２次中長期計画の報告も見ていただけると、その辺りも知っていただけるのではないかと思うが、次の中長期計画では公演事業、普及啓発事業、人材養成事業という分け方ではなく、ミッション別になっているというやや違うところがある。公演事業の中でもできている所、まだいまいちな所もあり、総括的にというとなかなか難しいところがある。ミッションの中で公演にはっきり位置づけられるものと、人材養成・普及啓発などに二股に分かれて出てくるものもあるので、できればそこで併せて説明させていただければと思う。

（加藤理事）質問が漠然としていたので質問を変えさせていただいて、人材養成事業はなかなか成果を把握しづらい領域なのではないかと想像するが、それを共有するためにあえて伺うが、人材養成の進捗をどのように肌感覚でお持ちなのかお聞かせいただけるか。

（藤井部長）人材養成は大きく二つに分かれており、アーティストの人材養成と舞台芸術人材養成がある。アーティストの人材養成もいくつか力を入れているところがあり、ダンサー、オルガニスト、ワークショップファシリテーター、今年はできていないが合唱団。どれも受けたいという人数の面ではある程度的を射て、それに対応した中身を提供できているのではないかと思っている。ステップアップというか次の段階にどうやって進めていくのかは、これからの課題になってきている。あるいは長期的なビジョン、勅使川原芸術監督が昨年度まで力を入れてくださっていたダンス公演を行うという一定の目標がそこにはあったが、今年はそれをもう一度見直すということで行っていた。これについて今後どのようなビジョンをもっていくのか考えていこうと、今計画しているところである。スタッフについてはどの事業についてもその時々のテーマ、ニーズに応えるような内容を提供できていると思っており、その結果、受けたいという人も比較的いつも多いので、ある程度の手ごたえは感じている。

（桧森理事）Ｐ９-10 アーティスト養成事業のダンサー養成事業、オルガニスト養成プログラムは、それぞれどの程度のレベルの方を対象としているのか。アーティスト

人材養成といっても本当に初歩的なものから、あと一歩でプロというところまで色々な段階があると思うが、その辺りはいかがか。

(藤井部長) ダンサー養成については、それぞれのワークショップで少し違っている。勅使川原芸術監督によるワークショップは監督の意向で幅広く受けてほしいということで、レベルは様々な方が受けていた。それ以外については３～５年以上の方ということで、初心者ではない、ある程度やりつつあって、さらにステップアップしたい人向けと考えている。オルガニストについては、最初の一歩をつくるということでやっている事業で、もう３・４年経つが、初級者向けということでレッスンを行っている。とは言ってもある一定以上のレベルの人で、これからオルガンをやっていきたい人で、初級者向けということで考えている。

(桧森理事) 私の意見としては、なかなか芸大・音大を出てから実際にプロになるまでの間がすごくギャップがある。ギャップは何かというと、実践できるチャンスがない。そういう機会をここで提供できて、名古屋でプロとしてやっていけるアーティストが誕生することに力を注ぐといいのではないかと思う。

(桧森理事) 広場ラボのところは、企画したり制作したりする人を養成しようというものか。

(藤井部長) 企画ではなく、ワークショップを実際に組み立てていく人である。

(桧森理事) これを受けた人は、実際にやりそうな人たちか。

(藤井部長) やっていくうちに分かってきたことは、この地域ですでにワークショップを何らかの形で自分なりにやっている人が受けに来ているというような状況である。その人たちがよりよいワークショップをやれるよう、いろんな角度からの情報やレッスンを提供するようになっている。これまでやってきたものを見直すということもあったと思うし、そこで出会った人たちが新しいワークショップを一緒にやりませんかというような交流も行われている。

(桧森理事) P11 の入門者のためのプログラムで、笠井さんと踊るワークショップに 25 人募集して５人しかいないのは非常にもったいない。めったにこんなチャンスはないし、中学生にとってはすごいインパクトだと思う。もう少し集められなかったのか。

(藤井部長) おっしゃるとおりだと思っている。25 人はそんなにたくさんの人数ではない。申し訳ないというか、いい機会を逃したと思う。

(桧森理事) 中部地区はダンスに力を入れている高校もあるし、もう少し頑張って集めるとよかったと思う。

(桧森理事) P13 に障害者及び劇場に来づらい人のためのサポートがあるが、参加者数は直接的なサポートを受けた人ということか。

(藤井部長) そうである。例えば字幕設置とあるのは、キッドピボットの舞台で字幕がついていたので、直接的に障害者のアクセシビリティを高めるのに役立ったかは分からないということで、人数はバーになっている。その下のヒアリングループは１人申し込みがあったので、その数字が載っている。

（桧森理事）障害者の方のサポートとしては、鑑賞事業については特に障害者向けという形にこだわらず、一般的な公演において障害者がアクセスできる形を考えた方がいいと思う。
（藤井部長）一般的な公演の中で、アクセシビリティを利用された方の数がここの数である。
（石田理事）P16 の他団体との連携・交流について、この館自体が県民との交流が欠けているように感じる。なんとなく薄暗い感じがして、県民との温かみのある交流がやりにくいんじゃないかという気がしている。地下のブックショップが県民の知らないうちになくなっていたりして、えっと思った。オルガンが置いてあってそれはいいと思うが。愛知県には愛知芸術文化協会（ANET）が 35 年前にできていて、この館と同じくらい歴史をもっている。400 以上の各団体がジャンルを超えて交流している。豊橋とか豊田とかにも芸術団体があると思う。ここが調整をされて、そういう団体の交流会をもって意見を聞くとか。例えばアートスペースの稼働率が低いとか、それを県民の芸術協会、文化協会が使う気はないだろうかとか、そういうサジェスチョンをされるとか、地下のアートスペース X をどう使うかだとか、使っていいよとか。市の芸術創造センターは時々空いた時に使っていいとか、そういうサジェスチョンがあって、喜んで交流している。そういう交流機会があるためには、県の振興事業団にしても、愛知県内の大きな任意団体にしても、その調整をされて、月に 1 回とか年に 1 回とか会合を開いて意見を聞くとか、センターの運営をどうするかとか、賛助会の会合をやるとか、何かそういう融和策ができないだろうかと思う。そういう交流がここに書いていないので、そういう調整をされてはと思う。
（林部長）組織的な話だと、ANET には理事長が役員として参画させていただいている。県民の方たちということだと、P５のオープンハウスのような取組みで劇場に親しんでいただくということと同時に、いわゆるユーザーと呼ばれる主催者の方たちとの意見交換などを常に行っている。また、ご近所でいうと久屋大通発展会に加盟したり、ノースセブンという団体があって近隣の商業施設・観光施設の方たちと月 1 回情報交換などをして、いろんな団体とお付き合いさせていただいている。その中で、今回は 10 月までなのでこの資料にないが、11 月には久屋ぐるっとアートというイベントを開催し、栄北エリアの皆様と一緒に、芸術劇場も含めてこのエリアの文化振興をともにやっていこうというイベントを開催している。いろんな団体があると教えていただいたので、少しずつネットワークを広げていきたい。
（石田理事）よろしくお願いします。特に、愛知県の協会は変わっていて、それぞれ独立していて連合がなかなかしづらい。連合する要がないので、協会の要になっていただいて、年に何回か集まって意見を聞くとかするといいと思うので、ひとつよろしくお願いします。

次に、議長はその他の報告に移り、（１）愛知県芸術劇場中長期計画について事務局に説明を求め、林広報・マーケティング部長が説明を行った。

＜主な意見＞

（上山理事）かなり精緻に分析されている。現状の第２次の棚卸しがまずあって、次どうするかという計画があって目標がある。この構造はしっかりしているし、定数的なものも前よりだいぶ整理されていて、目標を掲げつつも実行可能性もよく考えて、意味のない数値は外し筋肉質になった。締まりがとても良い感じはする。数値目標系は棚卸しして、今後の目標のところもいいので、かなり中でも議論されていて、中身もあるんだろうと思う。しかしこの第３次中長期計画は、概要だからというのもあるがあまりにも抽象的で、役所のルールに従うとこうなってしまうだろう事情はよく分かるが、もう少し現場発のやりたいことや、具体的な特徴を出していこうだとかいうものがないと、一般論というか、そもそも５つのミッションというのは世界中の劇場どこでもそのまま使えるくらいのテンプレートである。一番疑問に思ったのは、オの「こたえる」のところが何を言っているのかさっぱり分からない。あってもなくても全く同じ。ミッションを実施することでビジョンを達成するというのもトートロジー。オのところはほとんど中身が何もない。ないんだったらこんなのなくてもいいという気がする。ミッションはやらなければいけないことなので、やって当たり前のことも含めてここに書いてあると思うが、つくるのは当たり前だし、みる場所を提供するのも当たり前。若干特性が出てくるのは「ひろげる」とか「そだてる・つなぐ」だと思うし、ここは公立劇場とか愛知の特性が若干出ていると思う。言いたいのは、どこでも普通に劇場はそれをやるだろうことと、愛知のここの特性を活かしたプラスアルファの部分と、分けて書いてはどうか。ア（つくる）とイ（みる）はミッションで書かなくてもやるのは当たり前だと思う。やってなかったら大問題で、今までそれなりにできている。ウ（ひろげる）とかエ（そだてる・つなぐ）はプラスアルファの課題感があるし、差別化とか独自性もあると思うが、この辺りをべたっと抽象的に書いてミッションですというのが間違いではないが、これを作ってなんの意味があるか疑問が湧く。さらにこのビジョンに至っては、あってもなくても同じではないかという気がする。「よりどころ」という言葉も意味が分からないし、舞台芸術をリードするというのも意味が分からない。リードの意味は次のアイウエオで書けばいいが、それも書いていない。このビジョンとミッションというのが、いろんな都合に縛られてこんな作文になってしまっているという、役所仕事の事情は分からないではないが、それにしても他県の例などをもう少し見て、もう少しなんとかならないか。ただ、これは書き物の話であって、中身についてはさっき申し上げたようにかなり具体的な積み上げや分析がされているので、中身についての心配ではない。この書き物に関してはなんとかならないか。これはむしろ理事長のご判断ではないかと思う。従来型の旧弊をどこまで続けるのか。県庁の問題かもしれないが、こんなものを書いていて果たして意味があるのかという根本的な疑問が私にはあって、なくてもいいのではという気すらする。言いたい放題で申し訳ない。これをどうするかは理事長の判断という話になるが。

（水野理事長）まず第２次の計画の達成状況等の議論は中でしっかりやらせていただいた。これを踏まえた第３次の計画ということで、かなり積み上げ的な議論はしっか

りやらせていただいたと思っているが、一方でそれを１枚にとりまとめたこの概要が、結果として個性のないものとなっているのは否めないと思う。もう少し時間をいただいて、この中身をもう少し積み上げをしっかり議論していくのとあわせて、全体の形についても、役所的にいうとこのように 1 枚にまとめるのが通常だが、どういう形がいいか中で議論させていただきたいと思う。

（上山理事）ぜひ磨いていただくというか、やはり県民とか議会とか外の人たちが何を見て理解するかというと、問題になっているこの 1 枚を見て理解される。細かい方はプロが見たらかなりやっているな、ここはちゃんとしてるなという感じになるが、お客様を含めて、これではいかにもありきたりの役所仕事にしか見えなくて残念で、もったいないと思う。ぜひ頑張っていただきたいと思う。

（桧森理事）つくる、みる…といった分類の仕方をそもそもやめた方がいいと思う。なぜかというと、愛知県民はほとんど会社員で、トヨタとかデンソーとかアイシンとかに勤めている人たちはその会社の事業計画などを見たり作ったりしている。その人たちがこういう言葉を使うかどうか。もっと戦略的な表現をすると思う。そういう観点から見ると、こういうあまりにも一般論的なもの、このひらがなで表現されているようなことが、ここの戦略的なミッションなのかというと、なかなか一般論的にこれを見てもそうは思えないのではないかと思う。こういう分類の仕方をそもそもやめて、もう少し中身のあるもの、本当のミッションをやったらどうかなと思う。達成目標を３つに絞ってあるのは非常に大事なことでよいと思う。検証指標値はまだ細かく見ていないが、達成目標値に対してこちらは手段の指標だと思う。この手段をこれだけやれば達成目標値に近づくという関係性がクリアになっていれば、こういう設定の仕方はいいと思う。後は今後表現されると思うが、スケジュールをここに入れ込んでいくということをすれば完璧ではないかなと思う。

（林部長）前半のお話については、全方位的でポエムっぽいという話だと思うので、本文を考えていく上で戦略や戦術を書き足すような形で示すと、ミッションと施策をつなぐものが生まれて分かりやすくなるかと思う。後半の検証値については、この数字を追いかけていくことでなるべく達成目標値に近づくのではないかというものを挙げた。全部の数値が上がらなくても、半分以上くらい上がっていけば、少しずつ達成目標値も上がっていくかなというものを選んだ。スケジュール感のことは宿題にさせていただければと思う。

（桧森理事）一つ付け加えると、日本の舞台芸術をリードするということで、そのためにオリジナリティのあるものを作っていくということだと思うが、とんがったものを作るから来場者数は少なくていいとは思わないでいただきたい。とんがったものを作れば作るほど、マーケットは広がっていく。愛知県民だけではそんなに見に来る人がいないかもしれないが、日本全国ひいてはアジア全域で考えてみれば十分集客力のあるものになるはず、本物を作れば。そういうところをぜひ皆さん、気持ちの上でも持っていただきたい。

（林部長）唐津始めうちのプロデューサーも再演というところに注目していて、やは

り再演していただくためには、お客様が集まる作品であることが前提だと思うので、しっかり受け止めてやっていきたいと思う。
（太下理事）施策と指標のＰ２「ひろげる」の(2)イ(エ)のところに「国籍に関わりなく舞台芸術に触れられるプログラムを実施します」とあるが、書いてあることは分かるし、そういうプログラムも必要だと思うが、こういう書き方をすると他のプログラムは国籍を選ぶプログラムなのかという風に読めなくもない。他のプログラムは日本人向けであって、外国人または外国にルーツをもつ人たちは非常にバリアがあるんだろうなという風に見えてしまう。実際には唐津さんが手がけているダンスなどはノンバーバルであって、全然問題はないわけだが。たぶんこの施策が出てきた背景は、概要案の劇場を取り巻く環境(3)の外国人居住者数が全国２位、さらに外国人児童生徒在籍数が全国１位であるという愛知県の現状を背景にした施策だと思うが、もしこの現状を本当に受け止めるのであれば、施策は「国籍に関わらず舞台芸術に触れられるプログラム」ということではなくて、もっとポジティブに多文化理解を推進するような舞台芸術とかプログラムとかいったことになっていくのではないか。さらにそれに関連して言うと、５つのミッションの中でウの「ひろげる」の副題が「誰も取り残されない劇場づくり」とあって、誰も取り残されないというのは国際機関も使っているフレーズではあるが、ちょっと違和感がある。他のミッションの副題はどれも比較的理解もでき、達成もできそうな感じがするが、それに対してウはキャッチフレーズとしては理解できるが、本当にやろうとしたらとんでもないことになる。誰も取り残されないという表現はここにはそぐわないのではないかと思う。これが１点で、もう１点は、施策の中で「つくる」の(1)自主事業のア(イ)に「大ホールで、国際的でジャンル横断的なバレエ作品を創作初演します」とあるが、これはおそらくビジョンの「日本の舞台芸術をリードする劇場」というところに紐づいてこういう案が出てきているのだと思うが、日本の舞台芸術をリードするということで施策に書かれている「ダンス作品の創造・初演・再演」というのはよく理解できる。今日の冒頭にもご案内のあったとおり、こちらの唐津さんが（携わる）Daby がメセナ大賞を受賞されたということで、きちんと社会的にも評価されているわけで、愛知の芸術劇場でダンス作品を作っていくということは、国内的にも国際的にも評価されると思うが、ここでバレエ作品を作って本当に評価されるのか。
（林部長）一つ目のご指摘の「国籍に関わりなく」というのは表現についてのご指摘かと思う。おっしゃるとおりで、職務執行状況報告の方で常務の伊藤からも説明のあったやさしい日本語落語の公演は、実はお客様は外国人住民の方がいらっしゃっているが、その公演に至るまでに我々日本人側の方がやさしい日本語とは何か、どうやってチラシを作ったらいいか、どうやってアナウンスしたらいいかというような取組みをしている。外国人向けにだけやってはいけないというご指摘だと思うので、ここは表現を変えていきたい。
（藤井部長）壮大な言い方であるというのはそのとおりだと思う。こういうものを目指していこうという中で出てきた言葉で、100％それができるというのは難しいとは分

かっているが入れてあるという言葉だったりするので、この違いをこのままにしておくのか、もっと的確な言い方で表現していくとするとどういう言い方がいいのか、検討したいと思う。施策と指標の中の「つくる」(1)自主事業のア(イ)に大ホールでの国際的でジャンル横断的なバレエ作品については、ここでいうバレエは従来の古典的なものを想定しているのではなく、新しいバレエとして位置付けられるような形のものを考えている。５年間をかけて１回ないし２回やれればいいかなくらいのことを考えている。ダンス作品と言い換えてもいいのかもしれないが、この地域にバレエ団体が非常に多いところもあるので、何らかバレエの要素をもとにした形での新しいダンスの作品を作っていきたいということが議論の中で出てきたところから、ここはあえてバレエという言葉を使っている。どこからがバレエでどこからがダンスなのかはややこしいが、ここはバレエという言葉で表現される何か新しいものを作っていきたいということでこう書いてある。

（太下理事）これがここに掲載された経緯は分かったが、二つのことが混乱して書かれているように思う。愛知県においてバレエ団が多いというのは、この愛知県芸術劇場が受止めるべき地域資源かもしれず、この劇場での創作活動が国際的な評価を受けるのも重要なことかもしれないが、その二つを必ずしも結び付けなくてはいけないこともないと思う。地域にバレエ団が多いということであれば、芸術表現でなくお稽古事であるので、例えば国際的なバレエダンサーでもいいし、バレエ以外の分野のダンスパフォーマーでもいいが、そういった方を招聘して、普段のレッスンでは受けられないような、よりレベルの高いワークショップを行うということも、地域のバレエに関わっている方への大きな還元・貢献になると思う。バレエで国際的な評価を得るのはかなり難しいと思う。これを本当に実施されるなら、検証指標をしっかり掲げてください。国際的評価をどういう風に評価するのか、どういう風に検証していくのか、例えばフランスとかロシアとかのバレエ批評誌にどのくらい大きく掲載されるかとか、一定の指標として掲げて検証する必要があると思う。おそらく５年かけて一つの作品を作るのはかなり大型で、「ジャンル横断的で国際的」とあるので事業規模も大きくなると思うので、県民の税金を使ってやるなら相当な検証が必要になると思う。

（藤井部長）もう一度考えさせていただく。

（加藤理事）計画の概要の書き出しのところに計画策定の趣旨があり、これまでの取組みや、劇場を取り巻く環境の変化などを踏まえてプランニングしているということが書かれている。これは重要なことだと思うので、これまでの取組みから今後も大切にしていきたいと思っていることは何かということを言葉にしていただいたり、取り巻く環境変化をどう捉えているのかを少し言葉にしていただくと、ビジョンやミッションがこのように書かれたということが理解しやすくなると思う。３の劇場を取り巻く環境が具体的に表現されているので、読み手はこの３の内容とビジョン・ミッションの繋がりに注視して見ようとするという状況にあると思うので、大切にしてきたもので継承するものはこれだということと、だけど今こういう変化が求められているということをどう掲げておられるかということを言葉にしていただくといいのではない

かと思う。その上で私は、ビジョンとして掲げられた「日本の舞台芸術をリードする劇場」というのには、個人的には県民として感激した。そうか、それを目指しているのかというのが私は嬉しかった。お話を聞くと、愛知県発のコンテンツが趣旨として入っている。となると、趣旨としては結構プロフェッショナルな領域の方々にとってのニーズに対応するものという理解をした。一方で私のような文化音痴が年に数回は県芸に足を運んでみたいと思えるような、汎用性の高い文化芸術と触れ合う機会も重要としているというのが二つ目のイのビジョンになりえるのではないか思う。「よりどころ」というよりもっと平易に考えれば、芸術と触れ合う機会に飢えている県民に機会を提供しますというのをうまく表現していただくと、ポピュラーなニーズにどう応えるかということとあわせてビジョンが成り立つのではないかと思う。また、先ほど聞かせていただいた、本当は貴重な機会だが、もっと効果的なPRができていれば、多くの人に参加していただけたかもしれないという話が聞かれたので、効果的なPRを今後は力を入れるというのも施策の中に入っていてほしいと願う。それから、大切にしようとされている「そだてる」の中で、一定のニーズには応えている手ごたえがあるということだったので、大変結構なことだと思うが、あえて言うならステップアップを促す企画をどう提供するかということだと伺ったので、それが具体的に書けなくても、それを目指すという姿勢は打ち出した方がいいのではないか。その方が２次から３次にかけて課題を克服するプログラムだということが伝わりやすくなるのではないかと思う。
（林部長）ご指摘のとおり、ここの劇場は、自主事業と貸館が両輪で動いている劇場だと思う。自主事業で作品の創造や再演を目指すと同時に、一般県民という言い方がいいのか分からないが、より多くの方に楽しんでいただけるような貸館を上手に回していくということが求められていると思う。その中でこの「よりどころ」という表現がどうかということで、今日は色々ボキャブラリーに対するご指摘も多く、反省しているが、表現はしていきたいと思う。広報活動については、施策と指標のＰ３(2)自主事業のイに「広報活動を多様化し、県民の認知度・理解度向上に努めます。」とあり、多様化というのはご存知のとおり最近はデジタル化が進んでおり、その進化も早いということで、進化についていきながら何が効果的なのか、試行錯誤になってしまうと思うが、色々新しいことに取り組んでいこうと思っている。それに合わせて指標の方も新規になるが、県の方で定められたSNSのフォロワー数があり、我々の方で自主的に定めた情報の露出件数というところで計っていこうと思っている。
（藤井部長）ステップアップについてはご指摘いただいたとおりだと思うので、検討していきたい。

続いて、議長はその他の報告（２）債券で運用する基本財産の帳簿価額、時価及び評価損益について事務局に説明を求め、岡田総務部長が説明を行い、質疑はなかった。

以上のとおり、本日のWeb会議システムを使用した理事会は異常なく進行し、議長

は午後３時３３分、本理事会の閉会を宣言した。